

## 執筆者紹介

### 池田直子（いけだ・なおこ）

多摩美術大学美術学部ほか非常勤講師。ジェンダー、フェミニズム平和研究。おもな論文に「Seeing the Whole Picture: Antimilitarism in Japan and Okinawa」(Cynthia Cockburn, Cynthia (ed.), *Antimilitarism: Gender and Political Dynamics in Movements to End Wars and Redefine Peace*, Palgrave McMillan, 2012)、「軍事主義の『罔』としてのジェンダーの逸脱表象 ——カナダ・オンタリオ州ウィリアムズ事件の報道の分析を通じて」(『女性・人権・戦争』第11号、2011年)など。

### 大谷通高（おおたに・みちたか）

立命館大学法心理・司法臨床センター客員研究員。犯罪社会学、社会病理学。おもな著書に『生存をめぐる規範 ——オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』（共編著、立命館大学生存学研究センター報告21号、2014年）、おもな論文に「犯罪被害者の救済におけるケア・試論 ——〈被害〉についての考察から」（安部 彰・堀田 義太郎編『ケアと／の倫理（生存学研究センター報告11）』立命館大学生存学研究センター、2010年）など。

### 川端美季（かわばた・みき）

日本学術振興会特別研究員PD。立命館大学生存学研究センター客員研究員。公衆衛生史。共編著に『障害学国際セミナー2012 ——日本と韓国における障害と病をめぐる議論』（立命館大学生存学研究センター報告20号、2013年）。おもな論文に「Public Bath Movementと近代日本の公設浴場設立 ——身体観・道徳観に注目して」（『生命倫理』第25巻・第1号、2015年）など。

### 金友子（きむ・うぢゃ）

立命館大学言語教育センター嘱託講師。在日朝鮮人研究。おもな著書に『ディアスポラから世界を読む』（共著、2008年）。翻訳に、ガルミンダ・K・バンブラ著『社会学的想像力の再検討 ——連なりあう歴史記述のために』（岩波書店、2013年）など。

### 小泉義之（こいずみ・よしゆき）

立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授。哲学・倫理学。おもな著書に『生と病の哲学 ——生存のポリティカルエコノミー』（青土社、2012年）、『ドゥルーズと狂気』（河出書房新社、2014年）など。

### 小西真理子（こにし・まりこ）

日本学術振興会特別研究員PD。倫理学。おもな論文に「『共存』再考——フェミニズムによる批判の検討」（『倫理学研究』第45号、2015年）、「Regards croisés entre l'éthique du care et le concept japonais d'Amae」（Bourgault, S. & Perreault, J. (eds.), *Le Care: Ethique féministe actuelle*, Les Editions du Remue-Ménage, 2015）など。翻訳に、キャロル・ギリガン著「道徳の方向性と道徳的な発達」（『生存学』第7号、2014年）など。

### 中川志保子（なかがわ・しほこ）

ヨーク大学大学院女性学部博士課程。女性学、政治学。おもな論文に "Single Mothers' Activism against Poverty Governance in the U.S. Child Welfare System (Motapanyane, Maki (ed.), *Motherhood and Lone/Single Parenting: A 21st Century Perspective*, Demeter Press, 2016)、「共に在る——アメリカ福祉改革におけるシングルマザーフードの否定に抗して」岡野八代編『生きる——間で育まれる生』（風行社、2010年）、「シングルマザーの物語が持つ可能性——セイラ・ベンハビブとジュディス・バトラーの理論比較を通して」（『女性・人権・戦争』第11号、2011年）など。

### 堀田義太郎（ほった・よしたろう）

東京理科大学理工学部講師。倫理学、政治哲学。共著書に『差異と平等』（立岩真也・堀田義太郎、青土社、2012年）。監修『政治学大図鑑』（ポール・ケリー編著、豊島実和訳、三省堂、2014年）。おもな論文に「差別の規範理論——差別の悪の根拠に関する研究」（『社会と倫理』第29号、2014年）、「リベラリズムとフェミニズム——ケアを誰がどう担うべきか」（大越愛子・倉橋耕平編『ジェンダーとセクシュアリティ——現代社会に育つまなざし』昭和堂、2014年）など。

### 堀江有里（ほりえ・ゆり）

（公財）世界人権問題研究センター・専任研究員、立命館大学文学部ほか非常勤講師。社会学、レズビアン・スタディーズ、クィア神学。おもな著書に『レズビアン・アイデンティティーズ』（洛北出版、2015年）、「『レズビアン』という生き方——キリスト教の異性愛主義を問う」（新教出版社、2006年）。おもな論文に「〈反婚〉試論——家族規範解体をめぐる覚書」（『現代思想』第43巻・第16号、2015年）など。

### 山口真紀（やまぐち・まき）

立命館大学先端総合学術研究科一貫制博士課程。龍谷大学短期大学部ほか非常勤講師。傷・トラウマ、感情社会学。おもな論文に「『傷』への処方——帰属をめぐる見取り図作成のために」（『現代思想』第42巻・第13号、2014年）、「自閉者の手記にみる病名診断の隘路——なぜ『つまづき』について語ろうとするのか」（『生存学』第3号、2011年）、「〈自己物語論〉再考——アーサー・フランクの議論を題材に」（『Core Ethics』第5号、2010年）など。